



ブイにくっついて

イガイの仲間

太陽の日差しもずいぶん弱くなってきました。もうひと月もすると冬の北風が吹くようになるでしょう。そうすると、クシバルにはたくさんの漂着物ひょうちやくぶつが流れ着くようになります。今回は、そうした漂着物にくっついて阿嘉島にやってくる生き物の一つを紹介します。

以前、アムスルだよりでは、エボシガイという漂着物とともにやってくる動物を紹介しました。このエボシガイ、名前に“カイ”と付いていますが、実は貝ではなく、フジツボの仲間（つまりエビやカニと同じ甲殻類こうかくるい）でした。今回の生物は本当の貝の仲間で、イガイという二枚貝です。上の写真のように黒い貝がびっしりとくっついたブイをみなさんも見たことがあるのではないのでしょうか。これがイガイの仲間です（写真の貝はチレニアイガイという種類と思われます）。

イガイたちは、とてもしっかりくっついていて、簡単には取れません。大海原おおうなばら

を波にもまれながら流れて来たのですから、当然といえば当然なのですが、いったいどうやってくっついていているのでしょうか。力をこめて、1つ引きはがしてみると、

貝殻かいがらからひもがたくさん出ていました（写真1）。イガイ



写真1

は、このひもでブイなどの漂流物ひょうりゅうぶつにくっついているのです。このひもは「足糸そくし」と呼ばれる、

イガイの体の一部で、解剖してみると二枚の貝殻のつなぎ目付近から伸びているのがわかります（写真2）。

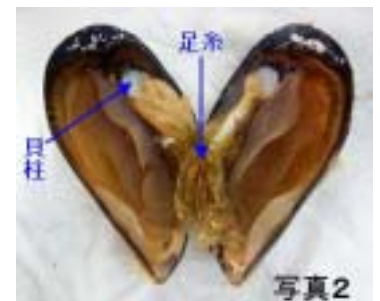
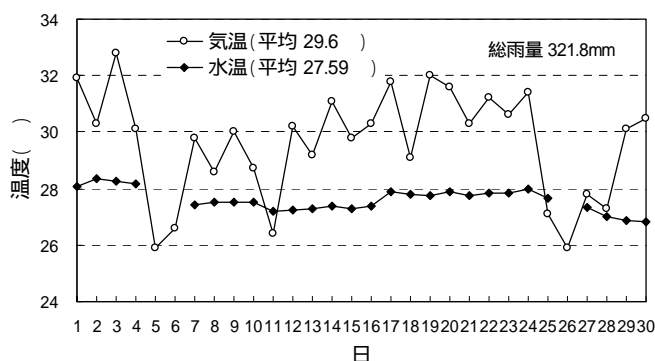


写真2

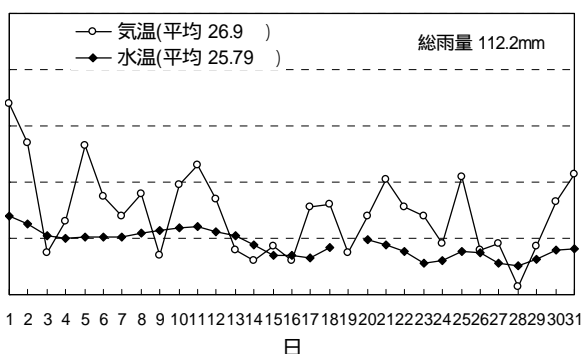
足糸は、イガイの体内の筋肉から貝殻の外へと伸びていて、その先端は特殊な接着剤で物にくっつきます。この接着剤も、もちろんイガイ自身が作り出すのですが、とても強力らしく、貝を引きはがしたあとにも、しっかりと残っています（写真1：多くの個体が集まると、ひとつの貝の上に別の貝が付きます。写真は、その別の貝の足糸のあとです）。一説によると、1本の足糸は、35~95gの重さに耐えられるそうです。とすると、写真1のイガイからは100本ほどの足糸が伸び

定点観測

2004年9月



2004年10月



ていますから、3.5～9.5kgの重さに耐えられる計算になります。

みなさんも、綱引きをやったことがあると思います。相手に引っ張られているとき、その力に耐えるのは、それだけでとても大変で、たくさんのエネルギーを使うものです。イガいの足糸は筋肉から伸びていますから、しっかりとくっついているということは、いつも綱を引いているのと同じことです。イガイたちは力つきないのでしょうか。じつは、足糸のつながっているイガイの筋肉は、“キャッチ筋”と呼ばれる特殊なもので、ふつうの筋肉は力をこめるのにたくさんのエネルギーを必要としますが、この筋肉はエネルギーを使わずに働き続けることができるのです。こうした様々な仕組みや能力は、イガイたちが荒波に耐えるために獲得してきたものなのでしょう。

阿嘉島の海より

・座間味村民大運動会

10月30日(土)、夏に逆戻りしたような強い日差しの中、座間味の緑地公園グラウンドで第27回目の村民大運動会がおこなわれました。今年は阿嘉区の3連覇がかかった大会でしたが、総合成績では惜しくも慶留間区に敗れ2位という結果におわかりました。優勝は逃しましたが、選手も応援団も一丸となったとても楽しい運動

会でした。

得点種目の成績

年齢別リレー	1位
600Mリレー	1位
800Mリレー	2位
障害物競走	4位
5000M走	全選手完走

・青年会釣り大会

11月7日(日)には毎年恒例の阿嘉青年会主催の釣り大会が開催されました。天候も絶好の釣り日和に恵まれ、参加者41名の大会となりました。沖釣り部門と磯釣り部門に分かれてそれぞれが一日釣りを楽しみました。釣った魚は島のお年寄りに配ったり、表彰式を兼ねた懇親会で振舞われたりしました。

そして今回の釣り大会の大物賞1位は4.3kgのガーラを釣り上げた平野友佳子さん(シードルン)、大漁賞1位は総重量11.7kgの金城孝晃君、船長賞は金城英記さんが獲得しました。



離島ならではのこのような手作りの大会はこれからも大事にしていきたいものです。